

大阪市 中 教 研 会 報

No. 147

編集者 大阪市立中学校教育研究会
発行人 大阪市立中学校教育研究会
会長 上 田 健 二
発行所 大阪市立中学校教育研究会
大 阪 市 立 友 渕 中 学 校
TEL 06-6928-1970

「人生 100 年 時代」 に向けて



大阪市立中学校長会

会長 塩 見 貴 志

「ウェルビーイング」という言葉に頻繁に出会うようになりました。個人的に気になったのは、「人生ゲーム」に億万長者をめざさないバージョンが登場したというニュースで、幸福度ポイントを集めて幸福長者をめざすというものです。

ゴールは100歳の誕生日で、実話を元にした体験談に触れながら進みます。勝敗のカギをにぎるのが「価値観カード」。同じマスでもプレーヤーの価値観によってポイントが変わります。幸福長者のマストアイテム「幸せの記憶カード」は、それぞれの年代で起こる幸せのエピソードを集めれば、幸福度ポイント大量獲得のチャンスになります。

書き連ねていくと、私たちが模索を続ける教育課題にそっくりです。教科・領域での知識・技能の習得や活用を通して生きる力を育むとともに、その習得過程や学校生活の中で、如何にして多様な「価値観」に触れ、各々を尊重する態度を身に着けるのか。如何にして「その年代でしか味わうことのできないエピソード」を手にするのか。

ゲームの対象年齢は「15歳以上」と書かれています。ゲームにしる、リアルにしる、卒業した子どもたちが「人生 100 年 時代のウェルビーイング」を考え続け、求め続けることを願っています。長い人生を前向きに捉え、新たな「価値観」との出会いにワクワクし、果敢に挑戦することで「エピソード」を増やしていく。私たちの教育実践はそのような生き方を後押しできているでしょうか。いまこそ「人生 100 年 時代の土台づくり」となる教育の研究と実践が求められています。

最後になりましたが、各教科・領域の研究を積み重ね、全市研究発表会・全体研修会等を開催されました中学校教育研究会の役員並びに各研究部の皆様のご尽力に敬意を表しますとともに、ご指導ご支援を賜りました大阪市教育局・大阪市総合教育センターの皆様方に心より感謝申し上げます。

ウェルビーイングを めざして



大阪市立中学校教育研究会

会長 上 田 健 二

昨年度から新型コロナウイルス感染症対策が緩和され各研究活動・発表会を対面形式で開催できました。全市研究発表会では、どの会場でも多くの会員の先生方が参加していただき、意欲に満ち溢れた研究成果の場面がありました。ご尽力いただきましたすべての部門の皆様深くお礼申し上げます。

この会報『大阪市中教研会報』は、昭和 51（1976）年 7 月 10 日に第 1 号が発行され今回 147 号となりました。中教研は 78 年目となりますが、この間、様々な先生方が自己研修の姿勢で研究会を継続していただきました。

さて、今日様々な場面で SDG s やウェルビーイングが言われています。特に、昨年度から研究テーマのウェルビーイングは、今後の教育の本質であると思われます。身体的、精神的、社会的に良い状態にあることといい、短期的な幸せのみならず、生きがいや人生の価値など将来にわたる継続した幸福です。多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じて、まわりの環境や地域、社会が感じられる良い状態であることがウェルビーイングです。そのために、どのようにして学ぶのか、何のために学ぶのか、どのような力が必要なのか、が教育において目指すべき目標となっています。

生徒の多様性に対応するため、個別最適な学びや協働的な学びについて、今後も様々な研究実践の継続をお願いするとともに、会員の皆様のご活躍を願っています。

最後になりましたが、各教科領域の部長先生や各ブロックの委員長、各専門委員の先生方はもとより会員の皆様方には、ご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。また、ご指導・ご助言を賜りました大阪市教育局・大阪市総合教育センターの皆様方に厚くお礼申し上げます。

部門より研究活動・成果について

国語部

「生きる力」としての国語力の育成

～自分の思いや考えを深める言語活動の充実～

堀田千秋（日本橋中学校）

○各ブロック研究会では、以下の通り集合研修を行った。

第1・3教育ブロック合同：デジタル新聞を活用した授業づくりについての研修

第2教育ブロック：書写指導に関する研修

第4教育ブロック：漢文に関する講演

○大阪府中学校文化連盟・大阪府立中学校教育研究会合同で以下の通り講習会を行った。

第21回 生徒のための書写講習会 第8回 生徒のための篆刻講習会

○全市研究発表会では、大阪府立友誼中学校を会場として、同校 古川 良平 主務教諭による公開授業「『動物園でできること』—三つの例示の効果を考え、筆者の主張を捉えよう—」、大阪府立中之島中学校 広瀬 章子 指導教諭による研究発表、「『トロッコ』の授業 —円環する語りの構造を読む—」を行った。公開授業の振り返りの中では、グループワークにおいて考えが形成されていく生徒のようすを観察した専門委員が、各グループの学びあう過程を報告する場面も設定した。生徒同士の学びあいや指導者による助言や発問の内容を共有したことについて、参加した教員からは、グループワークでの指導者の役割や授業を観察する視点を学べたという声が多かった。

また、研究発表についても、指導案をもとに実際の授業の組み立てや発問作りなど、丁寧な発表内容に対する肯定的な意見も多かった。今後も、国語科教員の授業研究のヒントになるような実践の交流を進めていきたい。また、研究発表についても、指導案をもとに実際の授業案の作り方など、丁寧な発表内容に対する肯定的な意見が多かった。今後も、国語科教員の授業研究のヒントになるような実践の交流を進めていきたい。

○第63回 政令指定都市中学校国語教育研究協議会 福岡大会「社会生活に生きて働く豊かな言葉の力を育む国語科学習指導の創造 主体的・対話的で深い学びの具現化を通して」に参加した。令和8年度の大阪大会開催に向け、研究活動を進めていく予定である。

社会部

一人ひとりの未来につながる社会科の創造

～問い・探究、そして参画へ～

小野寺 健（新豊崎中学校）

・研究主題に基づき、教科指導・授業実践・授業検討会等を通して研究活動を行った。

研究にあたっては、龍谷大学法学部 中本和彦 教授にご講話、ご指導・ご助言をいただいた。

・北方領土近畿ブロック研修会に参加し、北方領土に関する見識を高めた。

・ブロック研究発表会では、日本銀行大阪支店での研修会や裁判官を招いた研修会を行い、本市社会科教員の教科指導力を高める内容を提供した。

・全市研究発表会では、大阪府立真住中学校を会場として、同校仲美由紀教諭による公開授業、研究部長による基調提案、中本教授の講演「『深い学び』の実現をめざす社会科づくり～『問い・探究、そして参画へ』に向けた2つの教材研究～」を行った。

事後アンケートを実施し、今後の活動のための総括材料とすることができた。

・大阪府立中学校総合文化祭に参加し、社会科生徒作品を展示した。

・全国中学校社会科教育研究会北海道大会に参加し、全国の動向を把握するなどの成果を得た。

・近畿中学校社会科教育研究会京都大会に参加し、研究資料を社会部で共有した。

・近畿中学校社会科教育研究会・大阪府公立中学校社会科教育研究会、堺市立中学校教育研究会社会科部会、大阪教育大学附属平野中学校と連携し、令和7年度に開催する全日本中学校社会科教育研究大会大阪大会の実行委員会を開催して準備を進めた。

・副読本「おおさか環境科」の編集委員会・編集部会に参加し、教材開発に携わった。

・会誌「社会科通信」を発行し、全校に配信した。（予定）

数学部

未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして

中西 啓（佃中学校）

・数学部では、今年度の研究主題を「未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして」として取り組み、第106回全国算数・数学教育研究（大阪）大会、第71回近畿算数・数学教育研究（大阪）大会において、3名の専門委員の先生が研究発表をおこないました。

・本年度は、大阪で50数年ぶりに開催された第106回全国算数・数学教育研究（大阪）大会では大阪府教育委員会、教育センター等の関係の皆様のご指導・ご助言、ご支援を賜り、創意工夫を凝らした研究実践を発表

することができました。

- ・ 3名の専門委員の先生方の研究発表では、これまでの数学部研究の伝統を継承しつつ、新しいスタイルを模索するなかで行うことができました。いずれの授研究発表も、数学部として、脈々と大切にされてきた丁寧な授業づくりの研究や、成果を積みあげた内容で、全国の数学教育関係者に一石を投じたのではないかと考えています。
- ・ 今後、成果と課題を分析して大阪府中学校数学教育のさらなる発展を進めていく所存です。

理 科 部

理科の見方・考え方を働かせて、 未来を創造する資質・能力を育む理科教育

谷 塚 高 雅（加美中学校）

- ・ 今年度も、研究主題を「教員研修グループ」と「調査研究グループ」の2つのグループに分担し、それぞれの研究を進めました。
- ・ 全市研究発表会は、八阪中学校において実施され、研究主題「理科の見方・考え方を働かせて、未来を創造する資質・能力を育む理科教育」の実現に向けて、スルメイカの解剖実習が行われました。この実習を通じて、動物が生命を維持する仕組みを実物に触れることで理解し、観察や実験に関する技能を習得することができました。また、生徒一人ひとりが明確な目的意識を持って観察や解剖に取り組み、観察結果を基に動物の体の構造や機能の規則性、さらには人との関連性について考察し、自分の考えを表現することができました。この実習を通じて、生徒たちの科学的な思考力や探究心が育まれ、大きな成果を上げることができました。
- ・ ブロック研究発表会では、4つのブロック（第1ブロック：咲くやこの花館、第2ブロック：科学技術館、第3ブロック：天王寺動物園、第4ブロック：自然史博物館）に分かれて、各ブロックで講師を招いて研修会を実施しました。研修後のアンケートでは、多くの参加者から授業改善のヒントとなったとの意見があり、好評を得ました。
- ・ 生徒理科研究発表会では、夏休みの自由研究課題や部活動（理科部・科学クラブ）の研究発表を行いました。「プレゼンテーションの部」「発明工作の部」「実験・研究の部」の3部門で発表が行われ、優秀な作品や発表は、大阪府立中学校総合文化祭や大阪府学生科学賞に出展されました。生徒たちはテーマに基づいた探究活動を深め、課題解決力や論理的思考力を育むことができました。また、自らの興味関心に基づいた研究を進める経験は、主体的な学びへの意欲を高め、未来を見据えた資質・能力の育成につながりました。
- ・ 理科教員観察実習研修では、生物分野の「淀川フィールドワークで学ぶ教育のお役立ち情報」「二上山・ドングルボウの自然観察」、地学分野の「稲むらの火の館と津波到達点の見学」および「田辺層群の観察」を行い、研修の場を提供しました。これにより、授業力向上を支援することができました。
- ・ 全国中学校理科教育研究発表会山梨大会には、5名の教員が参加しました。「教育課程」「学習指導・評価」「観察・実験」「環境教育」についての研究発表や研究協議会に参加し、その成果を全市研究発表会で報告しました。

音 楽 部

音楽的な見方・考え方を働かせ、感性をはぐくむ音楽教育

－主体的・対話的で深い学びの実現に向けて－

安 藤 寛（大領中学校）

- ・ 令和6年度より研究主題を一新し、音楽科教員の授業力・指導力の向上について、次の3つの視点で研究を推進した。①主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ②生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識や、音楽文化についての理解を深める学習の充実 ③授業改善のための指導と評価の一体化
- ・ ブロック研究発表会では、8つのブロックに分かれ8本の公開授業を行い、その後それぞれで活発な研究協議が行われ、交流を持つことができた。
- ・ 夏季研修会では、大阪府中学校音楽教育研究会と共催し、8月5日に夕陽丘高等学校ヴィオラホールで行った。夕陽丘高等学校音楽科の皆さんによるオープニング演奏の後、「狂言入門」と題し大倉流狂言師 安東 元先生、「学習指導要領を振り返って」と題し文部科学省教科調査官 河合 紳和先生よりご講話いただいた。
- ・ 全市研究発表会では、大阪市立蒲生中学校 木村夏実先生が「日本らしさを感じ取れる歌をつくろう」と題し創作の公開授業を行った。タブレットを一人一人が用い音楽作成ソフトを使い、言葉の抑揚や音のつながりを感じ取り旋律を創作していった。研究協議でも教員それぞれがPCを持参し音楽ソフトを試したり、付箋機能を使い研究協議を行った。
- ・ 今後はより研究体制を組織化し、1学校1人の多い音楽科で年次にあった情報共有、研究、研修ができるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

美 術 部

造形的な見方・考え方を働かせるための学習をめざす

～美術が果たす役割を実感させるために～

石 川 文 子（東陽中学校）

美術科においては常に課題を見据え、何よりも作品の制作から子どもたちを育成することを第一に取り組んできました。それぞれの学校で課題が山積する中で、学校は何を教えるべきなのか、子どもたちにどのような力をつけるべきなのかを追求してきました。新学習指導要領は、本格実施となっています。本研究では「造形的な見方・考え方を働かせるための学習をめざす ～美術が果たす役割を実感させるために～」を研究主題に活動を進めてきました。これからは、子どもたちが活躍する20年後、30年後の未来を見据えた教育が必要となります。

今年度も子どもたちが意欲を高め、進んで美術の学習に取り組み、更には感性や造形感覚を高めるために全市研究発表会、各チームによる研修会、各種展覧会（総合文化祭・美術展・美術部展、造形展 他）の運営において、さらに充実した取組を進めることができました。「造形展」においては、今年度も大阪芸術大学のご協力により開催することができました。また、今年度は、来年度の「おおさか大会」を運営するにあたり、鹿児島大会を視察することができ、充実した研修を実施することができました。

いずれにおいても来年度につながる有意義な研究を進めることができました。

保健体育部

保健体育の授業における学習意欲を引き出し学びの質を高める

ー陸上競技（長距離走）の指導方法の研究ー

阿久津 弘 治（今津中学校）

今年度は、陸上競技（長距離走）の授業に取り組むとともに教員の授業づくりについて、研究することとしました。

長距離走は生徒にとって「しんどい」「辛い」等のマイナスなイメージが強い学習ではありますが、努力が数値として最も現れやすい種目でもあります。そのため、個人別で目標を設定するなど、工夫次第で生徒の体力向上を目指すことができます。そのために、(1) 振り返りやグループ学習の授業を展開し、生徒の意欲を引き出す授業づくりについて研究する。(2) 端末を活用することでフォームチェックを行い、記録短縮の要因を心肺機能向上だけでなく、フォーム改善の視点からも研究する。この2点について研究を進め、生徒の体力向上と保健体育科教員の指導力向上につなげていきたいと考えました。

全市研究発表会では、大和川中学校保健体育科教員による公開授業を行い、研究報告・協議を実施しました。今年度も180名を超える先生方が参加し、生徒の活動の様子や研究報告・協議を通じて他校の先生方と様々な意見交流を図ることができました。また、講師の方からの指導助言をいただき、各校の実情に応じた保健体育の授業につながる研究を進めることができました。

技術・家庭部

いのち輝く未来社会を実現（創造）する技術・家庭科教育

～深い学びへと導く、見方・考え方を働かせた実践～

村 上 美津子（城東中学校）

- ・技術・家庭部では、昨年度の近畿中学校技術・家庭科研究大会大阪大会の成果と課題についてさらに研究を深めることとし、今年度も研究主題を継続して、実践的・体験的な活動から技術・家庭科の概念の理解や形成を図ること、生活の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を身に付けること、よりよい生活の実現に向けて生活や技術を工夫し創造しようとする態度を育成することに重点を置いて、実践・検証に取り組んだ。令和6年8月28日、29日にブロック研究発表会、10月9日に全市研究発表会を開催し、全市研究発表会には約190名の参加があった。
- ・全市研究発表会では、技術分野が「解の再考ワークシート」の構成について解説し、他者と協働しながら課題を解決する力の育成、情報を整理し新たな知見を得ようとする態度の育成など、活用による研究成果を発表した。家庭分野は食生活、衣生活の内容で主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践に取り組み、地域と連携した調理実習、課題を見出し解決する力を育てる布を用いたバッグの製作について教材準備や外部人材の活用を含め、授業づくりの過程を紹介した。また、本研究部は大阪府中学校技術・家庭科研究会とともに府市合同研究部会を組織し、同じ研究主題のもと協働して研究活動を行っている。
- ・令和6年11月3日に柴島中学校において第24回創造アイデアロボットコンテスト大阪府中学生大会兼近畿大会を開催し、基礎部門、制御部門、応用部門、ライントレース部門、相撲部門に24校、85チーム、201名が参加した。どのチームも創意工夫してロボットを製作し、大会当日は熱い戦いが繰り広げられた。年々、難度が増しているが、競技の内容やルールに基づいて試行錯誤しながら個性豊かな作品を作り上げ、対戦や観戦を通じて互いに学びあう機会となっている。今年度、5年ぶりに対面式で全国大会が開催され、令和7年2月1日の大会には大阪市から6校10チームが参加し、3チームが審査員特別賞を受賞した。
- ・令和6年10月19日、20日に開催された大阪府立中学校総合文化祭には43校、331点の作品を展示し、授業や部活動で取り組んだ実習、実技の成果を披露し、生徒間で交流する機会を持つことができた。優秀作品は近畿大会、全国大会に出品し、家庭分野の作品が全国大会において全国市町村教育委員会連合会長賞を受賞した。

英 語 部

4技能5領域の総合的な能力向上

～2025大阪万博でコミュニケーションが取れる生徒の育成をめざして～

田野原 千 佳（西淀中学校）

- ・今年度のブロック研究会では、4ブロック計5会場に分かれ、研究協議を行った。内容は、昨年度に引き続き「中高連携」についてや、新たに「writing指導」や「アウトプット活動」について、そして昨年度の全英連愛媛大会で発表された「リテラチャーサークル」についてなど、多様な内容で実施することができた。
- ・市長杯中学生英語暗唱大会・スピーチ発表会は、今年度も矢田南中学校を会場として開催することができた。暗唱大会には18名、スピーチ発表会には9名が出場し、工夫を凝らした素晴らしい英語暗唱とスピーチ発表があり、日頃の英語学習の成果を見ることができた。
- ・全市研究発表会では、「4技能のバランスを重視した指導～4 skills for students～」と題し公開授業を行い、その後、関西大学 田尻悟郎教授よりご指導をいただいた。また、今年度より当日の資料については、Teamsで事前共有したり、昨年度に引き続き授業の感想や質問等をFormsに入力してもらったりなど、スムーズに

研究協議を進めることができた。

- ・1 学期末に全市中学校英語科教員対象に、小中連携に関するアンケートを実施した。また、アンケート結果をまとめ、考察とともに、ホームページ上にあげている。特色のある取組も紹介していることから、各校の今後の研究に活用していただきたい。
- ・English Festival について、今年度開催することができなかった。今後の開催方法については、中教研英語部会で検討していきたい。
- ・がんばる先生支援事業を活用し、近畿公立中学校英語教育研究会（兵庫大会）や全英連全国大会（埼玉大会）の報告会や、NHK LEAD 実践校（2 校）の実践報告を 3 学期に行う予定である。
- ・専門委員の活動を通して、全市的な研究活動、教材や指導法の情報共有、研修等の機会を持つことができた。

道 徳 部

多面的・多角的な視点で考え議論する道徳教育の創造

～ペアワークやグループワークを取り入れ言語力を育てる道徳科授業づくり～

神 田 敏 生（夕陽丘中学校）

今年度は土曜学習会・道徳教育推進委員会を定期的に開催するとともに、全市研究発表会を第20回大阪府中学校道徳教育研究発表会「大阪市大会」と兼ね、2 校で公開授業を実施できた。

更には、公開授業の後に実施した全体会では大阪市の取り組みについての研究発表を行った。そして、大阪府中学校道徳教育研究発表会「大阪市大会」を開催するにあたり、大阪市129校でプレ公開授業を実施できましたことに、全市各中学校の校長先生方をはじめ、全教職員の皆様方にご理解ご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

また、令和 6 年度文部科学省「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」による研究校 1 校・推進拠点校 4 校においては、校内研修会・小中合同研修会・小中相互参観授業・公開授業に取り組んでいただき、各校とも「触発者」の視点で教材を深めるペアワークやグループワークを取り入れた「主体的・対話的で深い学び」にもとづく授業展開の実践がみられた。

今後は、昨年度同様に「学習指導案集」および『『道徳科』授業づくりハンドブック』の改訂版（3 版）を発行し、各中学校へ配布する予定です。

特別活動部

生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造

進 藤 文 代（墨江丘中学校）

特別活動部では「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という資質・能力を生徒一人ひとりが自ら身につけていくことが大切であるという考えから、「生徒会活動を中心とする特別活動」と「キャリア教育をはじめとする進路指導」の二本柱で取り組みを推進してきた。

全市研究発表会では、前半は全国進路指導・キャリア教育研究大会と全国特別活動研究協議大会の報告を 3 名の先生が行った。

全国進路指導・キャリア教育研究大会報告では、白鷺中学校・江角俊幸首席教諭が、「これからの時代に求められる資質・能力を育むキャリア教育の可能性」、「中学校におけるキャリア教育の在り方」として、東京都葛飾区東金町中学校の「生徒の『夢』を大切に育てる 3 年間の指導実績」の発表報告を行った。

全国特別活動研究協議大会・第 7 分科会報告『『先生、もうええで』～こどもがつながる・つながる学級～』では、墨江丘中学校・石田 弘樹教諭が、班活動を基盤とした「子どもがつながる・つながる学級」を目指した、教師も生徒も一人一人を大切にしたい学級づくりの手立てと方法について報告を行った。

第 8 分科会報告「学校生活の充実と向上に向けて自主的・実践的に課題を解決する生徒会活動」では、白鷺中学校・泉 和樹主務教諭が、東京都狛江第三中学校の特色ある募金活動や沖縄県名護市立大宮中学校の、行事を企画から運営まで生徒主体で行う生徒会活動など、発表報告を行った。後半は、キャリア教育講演として、大阪企業家ミュージアムの廣田 雅美様より、「企業家の事績から学ぶキャリア教育～大阪企業家ミュージアムの活用～」という内容で講演いただいた。2023 年度の大阪市立学校活用実績や中学校のキャリア教育での活用事例の報告、「『企業家精神』とは何かを学び、旺盛な『企業家精神』をもった次代を担う人材を育成する」という大阪企業家ミュージアムの目的や、「今までになかった商品やサービスを生み出し、社会の発展や人々の生活向上に貢献した人」といった企業家の定義を説明していただいた。また、企業家精神の七つのキーワード「志」「変化」「先見性」「挑戦」「創意工夫」「自立自助」「意志」も紹介していただき、目標をもって、最後まであきらめないでチャレンジしてほしいという、子どもたちへの思いもお話いただいた。

研究会当日は、大阪にゆかりのある企業の紹介や、日清食品の「安藤百福さん」や江崎グリコの「江崎利一さん」を題材としたアニメーションの鑑賞など、実際の授業も先生方に体験してもらい、大阪企業家ミュージアムの見学も行った。キャリア教育、そして生きる力を醸成する 1 つのツールとして大阪企業家ミュージアムの活用は有効だと感じた。

今後も特別活動部では、さまざまな実践事例をもとに、生徒会活動とキャリア教育の視点から特別活動の研究を進める取り組みを推進していきたい。

生活指導部

生活指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と
連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する 平 尾 仁 志 (美津島中学校)

○講演

「子どもの『やった!』『できた!』を増やすポジティブ行動支援」

大阪教育大学准教授 庭 山 和 貴 氏

今年度は、全市研究発表会を近畿中学校生徒指導研究協議会と兼ねて開催した。開会行事ののち、午前中は、大阪教育大学 庭山和貴 准教授より「生徒の『やった!』『できた!』を増やす ポジティブ行動支援」と題しご講演いただいたき、昨年度説明いただいた『生徒指導提要』にある「生徒指導における重層的支援構造」で示される1層支援に加えて2層支援についてもお話しいただいた。午後からは、PBS（ポジティブ行動支援）の実践報告を大阪市の4人の先生方に発表いただいた。

いじめ、暴力行為、不登校など中学校を取り巻く課題は多様である。今回の研究大会では、大阪市で取り組んでいるPBSを近畿各府県市の先生方に紹介し、生徒指導上の諸課題についても報告・情報交換を行った。

○研究発表

「PBS についての実践報告」

大阪市立此花中学校 上 田 奏

大阪市立三稜中学校 尾 山 一 誠

大阪市立天満中学校 嘉 名 優 介

大阪市立十三中学校 鳥 飼 正 葵

大会後のアンケートでは、「内容は、有意義で今後役に立つものでしたか？」に対して肯定的回答は100%であった。また、「発表を受けて、これから何らかの導入を考えたい」と回答した割合は79.6%であった。

感想欄には「庭山先生のお話、大阪市の先生方の実践などに触れ、具体的な行動を起こすモチベーションとなりました。」「PBSについて初めて知りました。講演内容も素晴らしかったですし、その後、それを実践した学校の発表があったことで、より説得力があり収穫の多い研究協議会になっていました。参加させていただいて本当によかったと思います。」など肯定的な回答が多くあり、近畿の先生方にとっても有意義な協議会となった。

特別支援教育部

子どもたち一人一人が、共に学びに向かい
生きる力を育む教育をめざして 鹿 嶽 昌 彦 (弘済中学校)

研究活動について

- ・第61回近畿特別支援教育連絡協議会兵庫県大会 理事として大会参加

- ・全市研究発表会

発表 1. 大正西中学校の自立活動～職業体験を経て～

大阪市立大正西中学校 宮 崎 泰 成 先生

発表 2. 桃谷中学校での日ごろの取組

大阪市立桃谷中学校 岡 本 賢 先生

を花乃井中学校より Teams 配信で実施。小教研特別支援教育部を通じて小学校にも参加の呼びかけを行い数名参加。

- ・第63回全日本特別支援教育研究連盟全国大会福井大会 理事として大会参加

- ・インクルーシブ研修会

第 1 回 令和 6 年 6 月 25 日 (火)

会場 大阪市立花乃井中学校 (Teams でも同時に配信)

内容 通級指導教室の実践についての紹介及び意見交換・交流等

第 2 回 令和 7 年 2 月 28 日 (金) (予定)

会場 大阪市立花乃井中学校 (Teams でも同時に配信)

内容 「特別支援教育 ICT 活用研修」の伝達研修及び意見交換・交流等

交流行事について

- ・大阪市中学校特別支援教育担任者会と協力して全市的行事が開催された。合同うんどう会 (5月23日 (木) 長居第2陸上競技場)、ふれあいデイキャンプ (11月11日、14日、15日 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター (アミティ舞洲))、生徒作品展 (1月23日～29日 (予定) 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター (アミティ舞洲)) が開催となった。

その他

幼稚園・小学校との連携では、大阪市特別支援教育校園長連絡協議会を実施し、それぞれの学校園からの発表の後、小グループに分かれて情報交換を行った。また、中教研全市発表会同様、小学校教育研究会特別支援教育部主催の特別支援教育研修会 (12月24日 (火)) 参加の案内を全中学校に案内した。2月26日 (水) には、小教研特別支援教育部と合同で、支援を要する子どものキャリア教育について、特別支援教育部・担任者会小中合同研修会として大阪市職業指導センターの見学と事業説明を現地とオンラインで実施する予定である。

保健養護部

養護教諭の専門性と資質の向上をめざして

河 原 亜 紀 (加美南中学校)

研究主題に基づき、各ブロックにおいて共同研究を行い、また学習会とスキルアップ研修会を開催した。

- ・全市研究発表会では、第1教育ブロック（b淀川区・東淀川区）が「GIGA スクール構想 養護教諭の ICT 活用指導力の向上をめざして」をテーマに共同研究発表を行った。ICT を活用した健康観察では、校内の教職員全体で情報共有ができ、効果的な保健管理や生徒対応につながった。またデジタル保健だよりの配信により、生徒への保健教育及び保護者への学校保健の啓発ができた。ブロック内で作成したものや情報をオンラインで共有・検討することで、より充実した学校保健活動を実施することができた。養護教諭版「ICT 活用指導力」チェックリストを用いて実践前後の成果を確認した結果、ブロック内の養護教諭の ICT 活用指導力が向上したことが明らかになった。

共同研究発表後、京都女子大学 心理共生学部 心理共生学科 教授 大川尚子先生より、「養護教諭の ICT 活用—今までとこれから」をテーマにご講演いただいた。養護教諭の ICT 活用を考える機会となり、大変有意義なものとなった。

- ・学習会では、「帰国・来日等の子どもに対する支援について」をテーマに実施した。グローバル化が進み、多くの外国人が来日し日本で暮らしている。コロナ禍が明けて以降、その数は増加傾向にあり、様々な思いを抱えて外国からやってきた子どもたちに対する理解を深め、養護教諭が知っておくべきことや生徒・保護者対応のポイント、学校としてできることについてご講演と実践報告を行った。

講師 大阪市教育局委員会指導部 教育活動支援担当 人権・国際理解教育グループ

総括指導主事 馬場朋枝様・竹中将広様・相談員 吉永千恵様

実践報告 大阪市立南中学校 日本語教室担当 宮本 敦史 先生・田玄 文 先生

大阪市立南中学校 主務養護教諭 平山 莉奈先生

- ・スキルアップ研修会は、「事例演習 ～スキルを学びあおう～」をテーマに、問題解決に対する一般的理解や共通理解を深め、情報収集能力、意思決定能力、問題解決能力などのスキルを身に着けるために、保健室で起こりうる場面を想定しての事例を検討した。

情報技術部

カリキュラム・マネジメントの充実をめざして

～ 新学習指導要領を見すえ、社会に開かれた教育課程の確立 ～

西 中 善 彦 (茨田北中学校)

○情報技術部では、今年度も、例年どおり情報教育部門・新聞教育部門・統計教育部門の3部門が連携し、関連性を持たせながら研究を進めた。今年度の全市の発表は協議の上、3部門の専門委員が協力する中、統計教育部門と新聞教育部門の研究結果を発表することとした。その内容については以下のとおりである。

(1) 統計教育部門 『総務省統計局主催の講習会の分析から』

- ① 大阪市立玉津中学校 槌 田 祥 孝 教諭
- ② 大阪市立阪南中学校 小 寺 英一朗 教諭
- ③ 大阪市立大正東中学校 山 崎 真 史 教諭

(2) 新聞教育部門 『N I E 教育について』

大阪市立淀中学校 林 葉 子 教諭

統計教育部門は総務省統計局等が、東京都などの会場およびリモートによって実施した講習会から、教育現場で有効活用できるものを3分野セレクトし、それを理解しやすく分析・整理したものをパワーポイントなどを活用しながら発表した。

新聞教育部門は、「N I E 教育について」をテーマに発表を実施した。新聞を作る教育や新聞を使った教育についての内容であった。

教育メディア部

「生きる力」と「感動する心」をはぐくむ教育メディアの研究

～ 学校図書館、放送・視聴覚教育を通して ～

田 村 敬 子 (相生中学校)

放送・視聴覚教育部門では、7月に「第41回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト大阪大会」の企画・運営を行った。朗読・アナウンス・ラジオ番組・テレビ番組部門において、優れた発表を選出した。8月には、4ブロック合同で研究発表会を行った。生成 AI の動向の説明や生成 AI の学校における活用の実践例を紹介し、その内容をふまえた研究協議を行った。活発な意見交流が行われ、有意義な研究会となった。

図書館教育部門では、ブロック研究会で「大阪市青少年読書感想文コンクール」「大阪市読書感想画コンクール」の準備、「府市合同図書館研究集会」の企画を行った。

「全市研究会」は、「府市合同図書館研究集会」と兼ねて開催した。実践発表と講演を行い、各校の取組や自分たちの意識を見直す機会となった。

ブロックより研究活動・成果について

第1ブロック

豊かな心の醸成と社会の変化や課題に対応できる資質・能力の育成

－「新たな学び」の実践と交流－

西 村 有 里（築港中学校）

第1教育ブロックでは、ブロック研究主題をもとに各部門でテーマを設定し、研究・調査に取り組んだ。
また、ブロック研究発表会を令和6年8月29日（木）を基準日として開催した。
他ブロックや他研究会等との共催や、オンラインによるものなど、各部門の実情に合わせた開催となった。
専門委員の先生方が中心となり、各部門のテーマに沿って、研修や施設見学、公開授業・研究協議を行い、講話や指導助言をいただいた。

実践発表・交流の場となって、実り多い研究発表会となった。

今後も、子どもたちの個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をはかり、主体的・対話的で深い学びを通じて、豊かな心と社会変化に対応できる生きる力の育成をめざして、研究活動を充実させたい。

第2ブロック

主体的で、協働的な学び手を育む教育の創造

－「つながり」を生かした学びの場を通して－

松 田 正 也（董中学校）

昨年度からのテーマを引き継ぎ、研究交流を深めてきた。

8月28日（木）の基準日には全14会場で、公開授業や研究発表、見学会や講演会が開催され、活発な意見交流や情報交換が行われた。助言者からの貴重な情報提供や問題提起もいただき、参加者にとって多くの学びのある機会となった。また、各校の取り組みの交流も進み、近隣の学校の取り組み状況や実践を知る良い機会となり、「明日からの指導に反映させられるための研究会」として開催できたことは大きな成果であった。

今後も、全市研での交流を通じて、参加者一人々々が指導力を向上させることで、学校の教育力を高めていくことを期待したい。

第3ブロック

豊かな心の醸成と持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成

－新しい未来の姿を構想した実践交流－

安 藤 寛（大領中学校）

○ブロックの研究主題をもとに各部門で主題を設定し、各部門の特性を生かした方法で研究活動を推進した。
○8月28日の基準日に「ブロック研究発表会」を実施し、部門ごとに教員の情報交換・共有を行い、授業力や指導力の向上につながるよい機会となった。
○来年度に向けても、子どもたちの新しい未来の姿を構想しながら、全市・ブロック研究発表会が一体となった実践交流を進めたい。

第4ブロック

心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための資質・能力の育成

～全ての人の可能性を引き出す教育の創造～

今 垣 清 彦（田島中学校）

本ブロックは8月29日を基準日として、ブロック研究主題をもとに全市研究発表会や府や近畿、全国大会と兼ねたいくつかの部門以外でのブロック研究発表会となった。

大学や企業、総合教育センター、教育委員会から講師や指導助言者を招いての公開授業や指導方法研修会、施設見学・体験的研修、情報交換、生徒会交流会など、多くの有意義な取り組みが実施され、特に若手教員にとっては貴重な情報交換と学びの場になった。各部門において、対面で会って学びあうことの重要性を感じたとの声が多く寄せられていた。ブロック単位だからこそ、できることがあり、その良さを伺うことができた。

今後も全ての人の可能性を引き出す教育の創造のために、教職員間の協働的な学びが広がる活動としていきたい。

令和7年度 大阪市立中学校教育研究会 組織構成等について (予定)

日 程	内 容
3 月 下 旬	○書記より各校に、「部門別会員名簿作成依頼」を送付
4 月 4 日 (金)	○各学校において「部門別会員」を確認
4 月 11 日 (金)	○各学校より部門別会員名簿を書記に提出 ○本部役員選考委員会による本部役員の選考
4 月 16 日 (水)	○本部役員の指名、全体会の案内状を送付
4 月 16 日 (水) 4 月 23 日 (水)	○書記より、各学校の部門別会員名簿を 15 部門の部長に送付
4 月 中 旬 下 旬	○4つのブロック委員長へ文書「ブロック委員長の役割」を送付 ○各ブロック委員長より各部門担当校長名簿 ⇒ 書記に送付 ○書記が各部長に各ブロックの担当校長名を連絡 ○各部長とブロック担当校長とで専門委員の調整
5 月 上 旬	○各部門の部長は、部長、副部長、会計、小中連携担当、I C T、H P 担当及び専門委員の選出を行う。 ⇒ 書記に送付 (副部長は 2 ～ 3 名程度、専門委員は各ブロックに 3 名程度)
5 月 中 旬 下 旬	①各ブロックにおいて委員総会を開催し、ブロック委員長、副委員長、会計、専門委員の選出を行う。 ⇒ 書記に送付 ※ブロック委員長と部長は原則兼ねない。 ※専門委員の選出の際は、各部長との調整を行う。 ②ブロックの研究主題を検討・決定する。 ⇒ 書記に送付
5 月 21 日 (水)	○中学校教育研究会全体会 ※本部役員の選出 ○各研究部 ・専門委員及び部長、副部長、会計、小中連携担当、I C T、H P 担当を選出する。 ⇒ 書記に送付 ・研究主題等を決定する。 ⇒ 書記に送付
6 月 中 旬	○各ブロック ブロックの教科・領域担当校長と各部長とで連携し、ブロック内の専門委員の追加・訂正を行う。

※表中の提出・送付となっているところは、Skip による送受信で行う予定。

令和 6 年度 大阪市立中学校教育研究会 評議員会記録

第 5 回 評議員会

令和 6 年 11 月 14 日 (木)
 於:大阪市総合教育センター
 10階 1002研修室

- (1) 全市研究発表会について
- (2) 年間計画について
- (3) 研究集録『研究の歩み』『会報』について
- (4) その他
 - ① 小中一貫教育委員会実施について
 - ② 会計事務連絡
 - ③ 連絡事項

第 6 回 評議員会

令和 7 年 1 月 24 日 (金)
 於:大阪市総合教育センター
 9 階 905研修室

- (1) 本年度のまとめ
- (2) 会則改正について
- (3) 本年度会計について
- (4) 令和 7 年度の研究活動について
- (5) その他
 - ① 来年度の日程について
 - ② 中教研会報について
 - ③ 本部役員選考委員会について
 - ⑤ 中教研組織構成等について
- (6) 評議員研修会

「中学校教育研究会に求めるもの」

大阪市総合教育センター
 所長 富 山 富士子 様

令和 7 年度の日程

- 中 教 研 全 体 会 …… 5 月 21 日 (水)
- ブロック研究発表会 実施基準日 …… 8 月 27 日 (水) ・ 28 日 (木)
- 全 市 研 究 発 表 会 …… 10 月 8 日 (水)
- 全 体 研 修 会 …… 11 月 27 日 (木)
- 評 議 員 研 修 会 …… 1 月 23 日 (金)

ブロック研究発表会・全市研究発表会の開始時間につきましては、14 時以降で予定しています。

【大阪市立中学校教育研究会は、本年度（令和 6 年度）、公益財団法人 日本教育公務員弘済会大阪支部より研究助成を受けて研究活動を行っております。】

令和 6 年度 大阪府立中学校教育研究会・全体研修会

令和 6 年 11 月 14 日 (木)

於：大阪府総合教育センター

学校教育の Well-being を考える

～全国学力・学習状況調査から授業デザインと授業改善～

国立教育政策研究所教育課程研究センター

学力調査官・教育課程調査官 神 孝 幸 様

『Well-being の必要性について』

【学習の多様化の重要性について】

講演の初め、多様な生徒の実態について、現在の学校現場で下記のような児童が何人いるかという値の全国平均の割合を小学校 35 人学級に当てはめたものを、具体的に示しながら、現在の児童・生徒像について説明があった。教室にいる児童・生徒の多様性が増している現代において、学習の多様化が求められている。

教室の中にある多様性

- ・ 特異な才能のある子供(0.8人)
- ・ 発達障害の可能性のある子供(2.7人)
- ・ 不登校(0.4人)
- ・ 不登校傾向(4.1人)
- ・ 家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向がみられる子供(10.4 人)
- ・ 日本語を家であまり話さない子供(1.0 人)

【目指す未来社会 Society 5.0】

Society 5.0 として、政府が、目指すべき社会像を「持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(Well-being)を実現できる社会」とした。優れた能力がある者を伸ばせば、どんな個人・地域間格差を広げてもいいということでは決してなく、「多様性」「公正や個人の尊厳」「多様な幸せ (Well-being)」の価値が Society 5.0 の中核であり、日本社会に根差した Well-being の向上に向け、『何を育てるか、それをどのように育てるか。』という政策が示された。



「主体的・対話的で深い学び」によって「どのような資質を伸ばす」のか

『一律一律の教育・人材育成(同質性・均質性)から

多様性を重視した教育・人材育成(個別最適な学び・協働的な学び)への転換』

【学校教育に求められていること】

- ・ 子供たちがさまざまな変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと(探究心)
- ・ 様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと(振り返り)
- ・ 複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること(複数の道を自ら設定し選び取る)

【学習指導要領改訂の方向性】

学習指導要領の三つの柱について、今まで学習指導要領では①が中心の柱であったが、その中心が②、③の2つの柱になっている。学習指導要領には Well-being という言葉そのものは出てこないが、③の柱が Well-being につながっている。

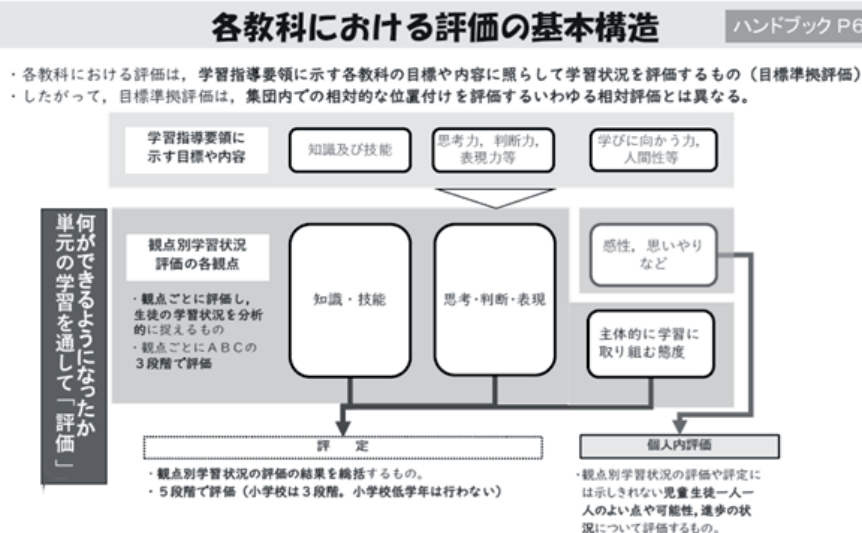
- ① 知識・技能 「何を理解しているか 何ができるのか」
- ② 思考力・判断力・表現力等 「理解していること、できることをどう使うか」
- ③ 学びに向かう人間性 「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」

【学習評価を意識した授業の組み立てについて】

「ペットボトル飲料の画像を見て思ったことを出し合う活動」をし、ものの見方や考え方をはたらかせた学習活動について具体的に説明された。一つの物を見る時、その見方には理科的な見方や、社会的な見方など、多

様にとらえ方がある。各教科の授業で、画像や文章などの教材を観察したりそれについて話し合いをさせる際には、それぞれの教科に応じた視点で観察をしたり話し合いをさせるようにコントロールしながら授業を行う必要がある。また、3年間をかけてその教科に応じたものの見方や考え方を育成していくという考え方で授業をしていくことが重要である。

次に、評価の基本構造の図を用いて、授業を生徒に合わせブラッシュアップするため、授業改善に学習評価をつなげていく仕組みを説明された。



実際にどのような授業展開になるかを具体的に考えるため、『おいしいカレーをつくろう！』という課題を用いた授業の展開についての話があった。

- ①「知識技能にポイントを置いた授業」
- ②「思考・判断・表現にポイントを置いた授業」
- ③「主体的に学習に取り組む態度にポイントを置いた授業」

①～③のどの視点に基づいた評価をするかによって、授業の展開は大きく変化する。同じ課題を用いた授業でも、どのような観点で、それをどのように評価する

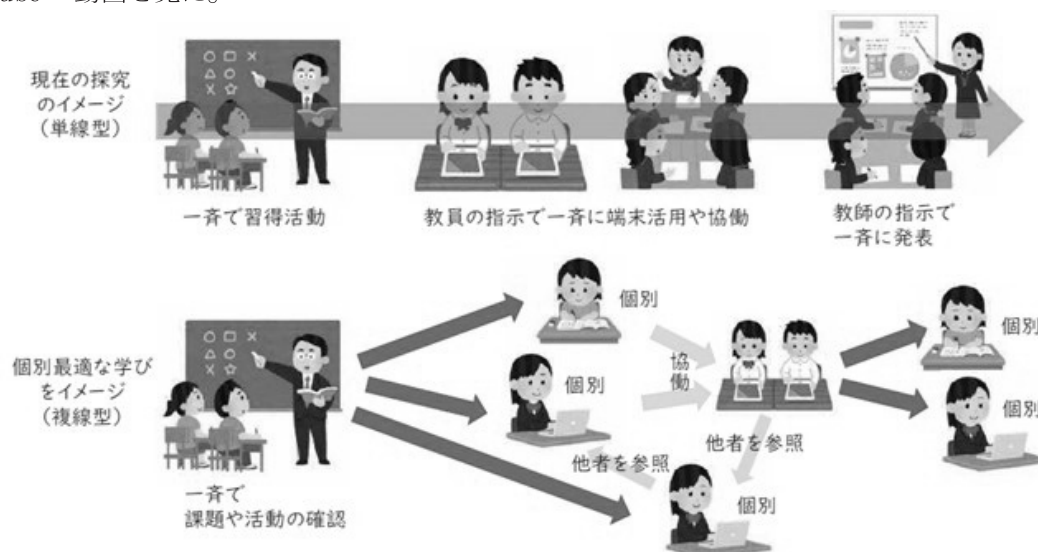
かということで、授業の展開の仕方が大きく変わるからで、「何をどのように評価するか」を強く意識した授業研究が大切になる。

例えば、③「主体的に学習に取り組む態度にポイントを置いた授業」では、粘り強く、試行錯誤しながらチャレンジしていることが高い評価になり、おいしいカレーができなくても良いということになる。「何をどのように評価するのか」という指導者が設定する目標によって、学びの深まり方が変わってくるという具合である。

また、授業の進め方について、スモールステップ方式で、一つずつの工程を細かく区切りながら進めると、「失敗が減る」というメリットはあるが、「主体的に考える力は伸びず、指示待ちの姿勢が生徒に強く出てしまう」というデメリットも出てくるなど、授業の進め方においても、指導者の目標設定で学びの深さが大きく変わってくる。主体的活動につながるためには内発的動機付けとなるような発問が必要になり、教師には主体的学びへ導くようなファシリテーターの役割が求められている。

【個別最適で協働的な学びについて】

個別最適で協働的な学びの例として、複線型の学習の実践例について富山市立芝園小学校の取り組みを紹介した YouTube の動画を見た。



講演の後半では、来年度行われる全国学力・学習状況調査について、CBT 調査の概要についてサンプル画面などを用いて、操作方法などを紹介された。